

東都大学図書館通信(深谷キャンパス)

晴耕雨読の季節です

～ 雨音を聞きながら静かに本を開いてみませんか～

1. 深谷市の偉人・渋沢栄一翁

2024年を目途とする紙幣刷新が決まり、深谷市に縁のある渋沢栄一翁が新1万円札の顔として採用されることになりました。このニュースは深谷市にとってはもちろん、渋沢翁の雅号「青淵(せいえん)」が法人名になっております本学にとっても大変喜ばしいことです。渋沢翁は「近代日本経済の父」と称され、生涯を通じ500社近い企業の設立に関わったといわれています。例えば、東日本旅客鉄道、東京ガス、帝国ホテル、東宝、日本製紙、日本郵船、みずほ銀行(すべて現在の名称で記載)など現存する多くの企業が挙げられます。世界遺産に登録されている富岡製糸場(群馬県富岡市)の設立にも関わっています。また渋沢翁は実業界のみならず、福祉、医療、教育の場においても活躍しており、聖路加国際病院をはじめとする多くの医療機関を支援するほか、日本女子大学の設立や運営に関わるなど近代的女子教育においても大きな役割を果たしています。深谷市内には渋沢翁にゆかりのある史跡が多く残っています。日本経済の礎を築いた渋沢翁の足跡を皆さんもたどってみませんか？



渋沢栄一上算盤篇 (鹿島茂著/文藝春秋刊)



五代友厚と渋沢栄一 (洋泉社刊)

2. 病院ってどんなところ？

皆さんは病院という組織についてどれくらいご存知でしょうか。医師が診察を行うところ？ それとも看護師が患者さんのお世話をするとところ？ 確かに病院は、医療行為を行う場所として重要な役割を担っています。しかし、病院内の業務は医師や看護師によるものだけではなく、患者さんの食事管理や栄養指導を行う管理栄養士、身体障害をもつ患者さんに対して基本的な動作能力の回復を手伝う理学療法士、医療機器の点検整備等を行う臨床工学士、そして病院の経営資源を司る事務部スタッフなど、ここに挙げたほかにも様々な職種の方が病院内で活躍しています。将来自分たちが働くであろう病院という組織について、一度ゆっくり勉強してみませんか？ 患者さんのために良質な医療を提供すべく、一丸となっている病院の姿が本を通してきっと見えてくるはずです。



イラスト&図解でわかる 病院の「しくみ」と「ながれ」 (イワノ重典著/ダイアモンド社刊)



病院早わかり読本 (飯田修平編著/医学書院刊)



3. 6月16日は和菓子の日

日本美の芸術ともいえる和菓子。その季節感や風物詩は目にも楽しく、また味わう楽しみも感じさせてくれます。さて、和菓子の中でも身近な羊羹について少しお話ししましょう。羊羹が日本に伝わったのは鎌倉～室町時代。中国に留学した禅僧によって点心(てんじん: 現在の間食)としてもたらされました。羊羹の「羹」は訓読みで「あつもの」と読み、「肉や野菜を入れた熱いお吸い物」を意味します。つまり羊羹とは「羊の肉を使ったスープ」のこと。しかし、禅僧は肉食が禁じられていたため、肉のかわりに小豆や小麦粉など植物性の材料を使って羊肉に見立てた蒸し物をつくり、それに汁をかけたものを日本では羊羹としていたそうです。戦国時代頃、羊羹は点心から菓子へと変化していきます。小豆などで作った蒸し物がしだいに甘みを増し、江戸時代には現在主流となっている寒天を使った煉羊羹が考案されたといわれています。



図説 和菓子の歴史 (青木直己著/筑摩書房刊)



事典 和菓子の世界 (中山圭子著/岩波書店刊)

4. 原作に触れてみませんか？

小説を読みながら「この役は〇〇さんに演じて欲しいな」「この役は▲▲さんが似合いそう」などと、実写化された場合の配役を想像するのはとても楽しいものです。実際に映画やドラマになったとき、想像どおりの配役ですと嬉しくなりますし、意外な俳優さんが演じていらしてそれが想像以上に適役だったりすると、より物語の面白味が増すように感じます。図書館には選書ツアーで購入された映画やドラマの原作小説がたくさん配架されています。原作と実写とでストーリーが若干異なることもありますが、それぞれを比較するのもまた面白いでしょう。「本を読む時間なんてない！」一授業や実習等で忙しい皆さんはそうおっしゃることでしょう。でも、ちょっとだけ本を開いて最初の何頁かだけでも読んでみませんか？ 続きが気になって夢中で読破してしまうかもしれませんよ。



ニート・ニート・ニート (三羽省吾著/角川文庫)



スマホを落としただけなのに (志駕晃著/宝島社刊)



大学生活にもっと会話と読書を!

管理栄養学部 講師 小坂谷典子

大学生活を満喫できていますか? 両学部ともヒトの体をサポートするスペシャリストを目指すわけだから、学習が大変と感じるのもうなずけます。長年の教員生活で出会った大学生は数知れませんが、どこの大学、どの学部の学生さんもとにかく常にスマホをいじっている! 大学構内、通学中、休み時間にひたすらスマホ。今だけの青春時代なのに、何だかもったいない気がしてしまいます。携帯電話が普及していない時代に学生だった私は、友人との会話や、一人の時は本を読んで過ごした記憶があります。わからないことは分担し調べて持ち寄り、いつも学食で教科書を広げ、お茶しながらワイワイと騒がしく勉強、おしゃべり、レポート、の繰り返しでした。本学でも開設準備中の『ラーニング commons』が、きっとそんな空間となるでしょう。びっしりと詰まった時間割の大変さや実験実習の失敗なんか、仲間と共有しながら明るく笑い飛ばして解決し、乗り越えたものです。もう随分と前のことだけれど、今でも輝いている思い出を材料に、図書館運営委員の一員として『ラーニング commons』の構想を練っているところです。

スマホを忘れたら大問題の一日となりそうですが、調べ物は『とりあえず検索』に慣れていると、専門職に就いた時どうなるか? 患者様から質問されてとっさにスマホを取り出す管理栄養士、看護師の姿を想像してみてください。自分が患者の立場なら、何だか変だろうし、「このスタッフ大丈夫?」と思っちゃいませんか? そこで、なるべくスマホに頼らない学生生活をおススメしたい! 会話や読書の良さをもう一度見直すチャンスとなるでしょう。一人の時は集中して図書館で関連本を調べたり、それについて友人とディスカッションしてみたり。何気ない行動けれど、その都度スマホ検索してとりあえず見て、また忘れたら同じ検索をして、、、よりは頭に入る確率は高いと思いますよ。

予習、復習、レポートで集中したい時は図書館を利用してみましょう。静かで落ち着いた空間と本の匂いに囲まれる時間は、考えをめぐらすのに絶好の機会です。他の利用者が頑張る姿も刺激になります。そして時間割に余裕ができれば、ぜひ友人と学習し合う時間を持ちましょう。国家試験対策がはかどるだけでなく、きっと将来の輝かしい思い出となるはず。今しか楽しめない大学生活に、もっと会話と読書を!

渋沢栄一翁史跡めぐり

渋沢栄一翁は、1840(天保11)年に現在の深谷市血洗島生まれ、幼少期より論語を学び、生涯を通じて論語に親しんだといわれています。

深谷市内にある「渋沢栄一記念館」では渋沢翁の銅像を見ることができます。また、幼少期の渋沢翁が論語を学びに通った尾高惇忠の家までの地域は「論語の里」と呼ばれています。このほか、渋沢翁の生地として知られる「中の家(なかんち)」や渋沢翁の喜寿を祝して建設された「誠之堂(せいしどう)」、渋沢翁が設立に関わった「旧煉瓦製造施設」など、深谷市内には渋沢翁にゆかりのある史跡が多く残っています。市内の飲食店では渋沢翁も愛した深谷の郷土料理「煮ぼうとう」がお召し上がりになれます。ぜひご賞味ください。



(上) 渋沢栄一記念館 外観(渋沢栄一記念館所蔵)

【山種美術館 広尾開館10周年記念特別展】生誕125年記念 速水御舟



みなさんは速水御舟という画家をご存知でしょうか。明治末から昭和初期にかけて活躍し、日本画に新しい息吹をもたらした新進気鋭の日本画家です。23歳という若さで日本美術院同人に推挙され、横山大観や小林古径などにも高く評価された御舟ですが、画風が型にはまることを好まなかった彼は、ストイックなまでに新しい画境を開き続けます。しかし、志半ばに40歳の若さで早世。残された作品はおおよそ700余点で、傑作との呼び声が高い「炎舞」(左)と「名樹散椿」は国の重要文化財に指定されています。本展ではこの重要文化財指定の作品2点を、実に3年ぶりに同時公開しています。さらに、山種美術館が所蔵する120点の御舟コレクションを前期と後期とに分けて全点公開いたします。御舟作品が一挙公開されるのは、2009年以来10年ぶり。常に新しい可能性を求めて挑戦し続けた孤高の天才・速水御舟の世界をぜひご堪能ください。

(左) 速水御舟《炎舞》【重要文化財】1925(大正14)年 絹本・彩色 山種美術館

会場: 山種美術館 〒150-0012 東京都渋谷区広尾3-12-36 会期: 2019年6月8日(土)~8月4日(日)
 *会期中、一部展示替えあり(前期:6/8-7/7、後期:7/9-8/4) 開館時間: 午前10時~午後5時 *入館は午後4時30分まで 休館日: 月曜日 *但し、7/15(月・祝)は開館、7/16(火)は休館 入館料: 一般1,200円/大高生900円/中学生以下無料 *障がい者手帳、被爆者健康手帳をご提示の方、およびその介助者(1名)は無料。*【きもの・ゆかた割引】会期中、きもの・ゆかたでこ来館のお客様は、団体割引料金となります。 展覧会公式サイト: <http://www.yamatane-museum.jp/> お問い合わせ: 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

本は正しい場所へ戻しましょう

図書館内でご利用になった本は、必ず正しい場所へお戻しください。間違った場所へお戻しになったり、適当な場所へ置かれたりしますと、図書館員でも探し出すのが困難な場合がございます。もし、お戻しになる棚がわからなくなってしまった場合は、お気軽に本を図書カウンターへお持ちください。図書館員が所定の棚へお戻しいたします。



紫陽花(アジサイ)

梅雨を彩る紫陽花たち。花びらに見えるところは実は萼(がく)です。花言葉は「元氣な女性」。梅雨時の沈みがちな気分を明るさを灯してくれる、紫陽花にふさわしい花言葉です。【参考】『いちばん探しやすい フローリスト花図鑑』(穴戸純・監修、世界文化社・刊)

